

道徳部会

研究主題 思いやりの心もち、進んで実践しようとする子どもの育成

1 主題について

道徳部会では、他者を思いやる気持ちや豊かな人間性の育成を目指して研究を進めてきた。今年度は「ねらいに迫るための発問の工夫」「道徳的価値と自分とのかかわりについて考える手立て」「他教科との関連を意識した道徳の時間の在り方」について研究を深めた。

2 今年度の取組

月 日	実践内容	月 日	実践内容
4月11日	第1回総合研究会 研究主題設定・年間計画作成	9月27日	交流授業研究会（桂城小学校） 6年 「銀のしょく台」 文溪堂 指導者 長田 優貴先生
8月21日	指導案検討会（川口小学校）	11月12日	第2回総合研究会 授業研究会（川口小学校）

3 研究内容

(1) 授業研究

- ・期日 11月12日（火）
- ・会場 大館市立川口小学校
- ・主題名 2年「自分のまちのよいところ」
- ・授業者 芳賀 珠美
- 4-（5）郷土愛
- ・資料名 「どうぶつ森のおまつり」（2年生のどうとく 文溪堂）

① 授業者から

- ・自分たちの思いをたくさん出させた後で中心発問に向かいたかったが、二つ目の発問と重なったか。
- ・終末の「下川沿のいいところアンケート」の結果は導入にもってくる予定だったが、子どもたちがより下川沿地区のことを好きになってもらうために最後に提示した。
- ・学習シートを見ると文章量も多く、気持ちにより添って書けていたのではないか。
- ・もっと発表させたい子どももいたが、時間配分が難しかった。

② 協議

- ・生活科のまちたんけんが今回の授業の礎となっていた。他教科との関連ができていた。生活科のまちたんけんは一学期と二学期で一回ずつある。一学期のまちたんけんは施設メイン、二学期のまちたんけんは人の思いやつながりを学習するものだが、それにつながるものだった。
- ・導入・展開・終末の流れがスムーズだった。中でも導入では学芸会のことを想起させ、その達成感からスムーズな流れになったのではないか。
- ・落ち葉、川、山を表現した場の設定が効果的だった。子どもの集中力をそがないものだった。



【モグラになりきって役割演技】

- ・ペア学習は隣の人ではなく、書き終わった人から見取って行っていた。効果的だった。評価もしやすい。板書する際、その場で書くのではなく、後でまとめて書いていた。その手法も良かった。
- ・郷土とはそこにいる「人」そのもの。子どもたちはあいさつなどの人とのかかわりもいいところだと認識できた。自分の住んでいるところを好きだと思えば、今後の子どもたちのふるさとに対するかかわり方も違ってくる。また、教師自身が下川沿のことが好きなんだという思いが伝わってきた。

(2) テーマ研究

《伝達講習～西館小学校 米沢 志江先生》

- ・道徳教育推進教師の役割と推進体制の確立について（資料に基づき全員で読み合わせ）

(3) 指導助言（嘉藤 貴子 北教育事務所指導主事）

- ・昨年度は実践発表、今年度は伝達講習を入れるなど研修の仕方が工夫されている。
- ・書く力のある子どもたちであった。発表をしたい思いであふれていた。
- ・川口小学校は繰り返し道徳に取り組んでいる。本時は様々な手立てがあったが、先生方の日頃の実践の積み重ねである。
- ・低学年の郷土愛の授業提供は貴重な機会と思う。子どもたちを話に引き込む手立てがよかった。
- ・他の教育活動との関連がうまくいったのは、全体計画を密に考えているからである。指導案や板書計画まで丁寧に作成されていた。関連構想図で本時がどこをねらっているのかが全体計画の中で捉えることができる。
- ・アンケートの生かし方にも配慮していた。アンケートには今までの生活科や総合的な学習の時間の成果が表れていた。
- ・最終的にやはりこの資料の価値は4－（2）勤労観ではないかと感じた。授業者の意図した価値に近付けるためには中心的な発問で「森や森のみんなのどんなところが好きになったかな」という発問も考えられた。
- ・子どもの実態が郷土愛について高まっていた状態で、どこまでねらうのかを考えることが大事。子どもにとって今日の資料では物足りなかったのでは。ねらいが資料に焦点化して含まれていることが大事。
- ・道徳教育推進教師が一人でがんばるのではなく、子どもの実態にあった全体計画を作成し、全校で協力しながら実践を積み重ねることが大事。道徳の授業を積極的に公開してほしい。

4 成果と課題

(1) 成果

- ・授業研究会を通して、道徳の時間と他教科との関連、道徳教育推進教師を中心とした道徳の授業の在り方について研修を深めることができた。

(2) 課題

- ・子どもの実態に合った授業を展開するために、資料を吟味し、終末部分での子どもの心の変容を具体的に見据えた授業づくりについて研修を深めていきたい。